

Title	小特集：経済学会コンファレンス：社会的選択とゲームにおける協力関係
Sub Title	序 Preface
Author	川又, 邦雄
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1996
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.89, No.1 (1996. 4) ,p.14- 16
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	小特集：社会的選択とゲームにおける協力関係
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19960401-0014

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

小特集：経済学会コンファレンス 社会的選択とゲームにおける協力関係

(1) はじめに

1995年度経済学会コンファレンス“Social Choice and Cooperative Aspects of Games”は、8月30日午後から31日夕方まで神奈川県元箱根の山のホテルで行われた。海外からの参加者の多くは、8月22日から29日まで本塾大学三田キャンパスで開催された Econometric Society の第7回世界大会のために来日した人々であった。外国人研究者10名と、わが国の研究者12名という多数の第一線の学者がコンファレンスに出席することができたのは、主としてそのことに依存している。

全体は3つのセッションに分かれ、各セッションにおいて、2ないし3の論文、計7本が発表され、和やかな中にも活発なディスカッションが展開された。社会的選択と協力ゲームの分野での今後の研究活動に有益な指針を与えられたことをうれしく思う次第である。

本小特集に集録されたものは、報告論文のうちの6編である。原論文のあるものは100頁を越える力作であり、他のものは、いくつかの主張をより注意深く展開した後公刊される予定のものであった。またこのコンファレンスに出席できなかった参加者との共同論文も半数ほどあった。このような事情をかんがみ、参加者に依頼し報告論文のエッセンスを10頁程度にまとめていただくことにした。ここに掲載したものはその邦訳であり、ご協力いただいた関係者には紙面を借りてお礼を申し述べたい。

本小特集で扱った社会的選択と協力ゲームに関するさまざまな研究は、多様な内容を持ち、多くの解決すべき問題を残している。そうした問題についてのここでの研究のいくつかは、たとえ未完成なものであっても、将来の飛躍のための重要な礎石となることを信じて疑わない。

(2) プログラム

コンファレンスのプログラムは以下に記した通りである。ここでは著者の原名、論文の原題を示してある。

8月30日（水）

* 本コンファレンスの開催にあたっては、財団法人三菱銀行国際財団に資金の一部を補助していただいた。ここに謝辞を表したい。

<セッション1 社会的利害調整>

座長：Nick Baigent, Graz 大学

1. 報告者：Luis Corchon, Alicante 大学（同大学 Carmen Herrero と共同）

タイトル：“A Decent Proposal”

2. 報告者：グレーヴァ香子, 慶應義塾大学

タイトル：“Wage Premium and Timing of Reward: Reward Your Worker Now or Later?”

3. 報告者：蓼沼宏一, 一橋大学

タイトル：“Trade-off between Equity and Efficiency in a General Economy with Indivisible Goods”

8月31日（木）

<セッション2 寡占と均衡>

座長：酒井泰弘, 筑波大学

1. 報告者：Egbert Dierker, Vienna 大学（Copenhagen 大学 Birgit Grodal と共同）

タイトル：“Profit Maximization, Relative Prices, and the Maximization of Shareholders' Real Wealth”

2. 報告者：Robert Anderson, California 大学 Berkeley 校

（California 大学 Los-Angeles 校 William Zame と共同）

タイトル：“Edgeworth's Conjecture with Infinitely Many Commodities”

<セッション3 ゲームと協調>

座長：Joaquim Silvestre, California 大学 Davis 校

1. 報告者：Francis Bloch, Groupe HEC

（CORE, Louvain Catholique 大学 Sayantan Ghosal と共同）

タイトル：“Bilateral Bargaining and Stable Cartels”

2. 報告者：Lin Zhou (周林), Yale 大学

タイトル：“Nash Bargaining Theory and Revealed Preference Theory for Non-convex Problems”

(3) コンファレンス発表論文の背景と概略

社会的選択と協力ゲームは、現在急速に発展しつつある経済学の分野である。ここではそうした理論を用いて、社会的利害調整と協調がどのように生じるかを分析した論文のいくつかを集録した。それに加えてゲーム理論に依拠した寡占市場の分析に関する二つの論文を掲載した。

(i) Luis Corchon が報告した“A Decent Proposal”（「穏当な提案」）は、各人が配分に関する「穏当」な提案をするときに、ナッシュ均衡として達成される配分（解）について検討している。従来の知られている Nash や Kalai = Smorodinsky 解との一致性についても吟味している。

(ii) グレーヴァ香子が報告した“Wage Premium and Timing of Reward: Reward Your Worker Now or Later?”（「労働者が每期離職可能な時の報酬のタイミングについて：外部オファーが一様分布のケース」）では、定常的な環境の下においては労働者の生産性に対してすぐに報酬を与えることの方が、労働者の転職の決定を待って与えるよりも企業にとって好ましいということが主張されている。この結論は、通常の年功報酬の制度と対比した場合は興味深いものである。

(iii) Egbert Dierker が報告した“Profit Maximization, Relative Prices, and the Maximization of Shareholders’ Real Wealth”（with Prof. Grodal）（「利潤最大化，相対価格，および株主の実質資産の最大化」）は、一般に利潤最大化問題の解はニューメールの選び方，あるいは一般的には相対価格を絶対価格に変換する規準化のルールの選び方によって大きな影響を受けるということについて論じている。企業がある特定の利潤関数を目的関数として選択した場合に，利潤最大化行動を相対価格のみに依存するように表現できる。本論文では，この問題は企業の利潤をその株主の支出に関連づけることによって，明解な経済的意味を与えうることが示される。

(iv) Robert Anderson が報告した“Edgeworth’s Conjecture with Infinitely Many Commodities”（「無限の商品をもつ経済におけるコアの収束」）は，無限次元の商品空間と大きな有限数の主体をもつ経済において，コアが競争配分にどの程度近づくかを検討したものである。有限次元の空間の場合のように，両者が極限において一致するということは期待できないが，適切な意味において，コアが近似的に競争配分となるようないくつかの十分条件が示されている。

(v) Francis Bloch が報告した“Bilateral Bargaining and Stable Cartels”（「二者間交渉モデルにおけるカルテル形成」）は，少数の売り手と買い手が逐次的な二者間交渉を通じて取引を行う市場でのカルテル形成について分析している。モデルは3段階の非協力ゲームで，第1段階がカルテルの形成，第2段階が市場に参加する売買人の人数の決定，第3段階が非分割財の価格の二者間交渉による決定である。そして市場の双方（売り手側と買い手側）で形成されるカルテルの規模は等しくなり，またカルテルの形成がエスカレートしていくことはないという結論が得られる。

(vi) Lin Zhou が報告した“Nash Bargaining Theory and Revealed Preference Theory for Non-convex Problems”（「非凸問題におけるナッシュの交渉理論と顕示選好理論」）は，ナッシュの協力ゲームにおける選択対象（効用可能性集合）の非凸性の仮定を緩和しようとしたものである。顕示選好の理論を社会的選択の問題に応用することによって，問題の解決をはかっている。

川 又 邦 雄

（経済学部教授）